

くらしupながの

「消費者の5つの責任」

- ・批判的意識をもつ責任
- ・環境への配慮責任
- ・社会的弱者への配慮責任
- ・連帯する責任
- ・主張し行動する責任

河内長野市消費者啓発受託事業
編集と発行

かわちながの消費者協会

河内長野市消費生活センター内

TEL 0721-56-2360

FAX 0721-56-0701

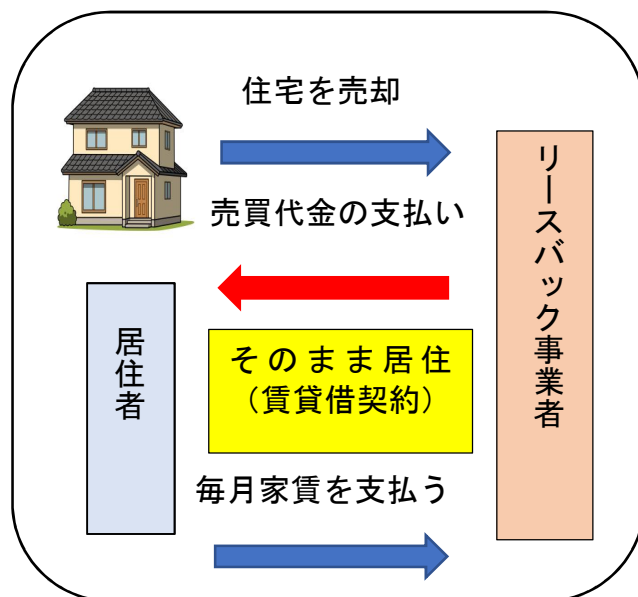


住宅のリースバック契約

は慎重に！

住宅の「リースバック」とは、自宅を不動産業者に売却して代金を受け取り、同時に賃貸借契約を結んで、その後は毎月家賃を払いながら同じ家に引き続き住み続けるという仕組みです。

全国の消費生活センターに寄せられる住宅のリースバックに関する相談は、ここ数年増加しています。特に契約当事者の約70%を70歳以上が占めています。



<事例>

自宅を売って、そのまま賃貸でそこに住み続けられる契約をした。当時は夫と私の年金で家賃を支払うことができたが、夫が亡くなり、年金額が減ったので家賃が払えなくなった。家賃を滞納し、事情を話したら「出て行ってもらおう」と言われた。

<アドバイス>

- ◆ 買取価格は相場の6～7割にしかないこともあり、複数の事業者に見解を聞き、売却価格が納得できる価格かどうかを検討することが重要です。
- ◆ 自宅の売却はクーリング・オフができず、契約が成立すると無条件で解除できません。解約に多額なお金がかかることもあります。
- ◆ 賃貸借契約は期間が定められる場合もあり、希望通りの間住み続けられるとは限りません。また、家賃が相場より高額に設定されてしまうことや、契約更新時に家賃が値上げされることもあります。
- ◆ 「売却で受け取る金額」と「住み続ける期間に賃料として支払う金額」、どちらが高いか計算して、慎重に比較しましょう。
- ◆ 条件次第では事業者が第三者に住宅を売却してしまうこと（オーナーチェンジ等）もあり、貸主が売却先の事業者ではなくなる場合もあります。
- ◆ 契約する前に家族など信頼できる方に相談し、一人では対応しないようにしましょう。

あなたはどのような行動をしていますか？—アンケート調査より—

近年、記録的な豪雨や猛暑日の増加など、地球温暖化による気候変動の影響を受けています。私たち消費者は、自身の消費行動が、地球環境の持続可能性に影響を及ぼすことを自覚したうえでの行動が求められています。

当協会では、令和7年消費者月間の5月1日から22日に河内長野市立市民交流センター1階エントランスにおいて「温室効果ガス削減に関する展示」とアンケート調査（該当する行動にシールを貼ってもらう）を行いました。

【環境に配慮した消費行動 あなたはどのような行動をしていますか？】 調査結果

行 動	人数
マイバッグの利用	9 6
マイボトルの利用	6 6
リサイクル商品の購入	1 8
CO ₂ 削減商品の購入	1 4
地産地消・身近な直売所などで購入	4 8
有機食品（農薬・化学肥料削減）の購入	2 7
詰め替え商品の購入	5 7
陳列商品のてまえどり	3 8

総回答数 364（複数回答あり）



- ・マイバッグやマイボトルの利用者は多く、「脱プラ」の意識は高く感じられた
- ・環境問題に関心はあるが、リサイクル商品を購入する人は少なかった
- ・有機食品の購入やCO₂削減商品の購入は少なかった

令和7年消費者白書は「消費者の環境問題に対する意識と行動の分析」を特集。

環境に配慮した消費者行動への意識と実践状況を以下のように分析しています。

- ・「ゴミの分別」「食品ロスの削減」「使い捨ての削減」は7割以上の人実施。
- ・一方で、環境配慮商品を選択している人は1割から3割程度。
- ・どの商品が環境に配慮されているか分からないことが購入につながらない最大の理由。

大阪府では毎年「カーボンフットプリントを探してみよう～お買い物で脱炭素にチャレンジ～」プロジェクトを展開しています。

農林水産省でも、農産物の環境負荷低減の「見える化」を推進するため、温室効果ガス削減への貢献や生物多様性保全への配慮の取組をラベルで表示することで、生産者の努力が消費者に伝わり、農産物を選択できるよう進めています。

しかし、これらの事業は消費者に十分に認識されてなく、環境に配慮した消費行動を促すためには、ラベル認知向上や幅広い情報提供などが求められます。

サーキュラーエコノミーを知ろう

資源を大切に使うための考え方としては「3 R（リデュース、リユース、リサイクル）」が知られていますが、「環境活動としての3 R」から、持続可能な資源を最大限活用する「サーキュラーエコノミー（循環経済）」への転換をはかることが、世界的な潮流となっています。

「循環経済」は、生産段階から再利用などを視野に入れて設計し、限りある資源をむだなく循環利用して、廃棄物を最小限にし持続可能な社会をめざす経済システムのことです。

サーキュラーエコノミーの3原則

- ・廃棄物と汚染を出さない
- ・製品と原材料を循環させる
- ・自然を再生させる

実例Ⅰ エフピコの循環型リサイクル「トレー to トレー」 （スーパーの回収箱へ）

使用済みトレーはスーパーの回収箱へ、スーパーへトレーを納品した帰りのトラックで引き取り、リサイクルトレーとして再生されます。

実例Ⅱ サントリー「ボトル to ボトル」 水平リサイクル

河内長野市内で分別収集されたペットボトルは、全てサントリー社に引き渡し、新たにペットボトルへと再生されます。

私たちに できること

「ものを買う」「ものを使う」「資源ごとに分ける」

「資源をまわす」その結果生まれた「ものを買う」

・・・というように

ぐるぐると循環させていくことが大切で
これを「循環型消費行動」と呼んでいます。

ものを買う

- ・長く使えるものを買う
- ・再生材でできたものを買う
- ・レンタル・シェアリングサービスを選ぶ

ものを使う

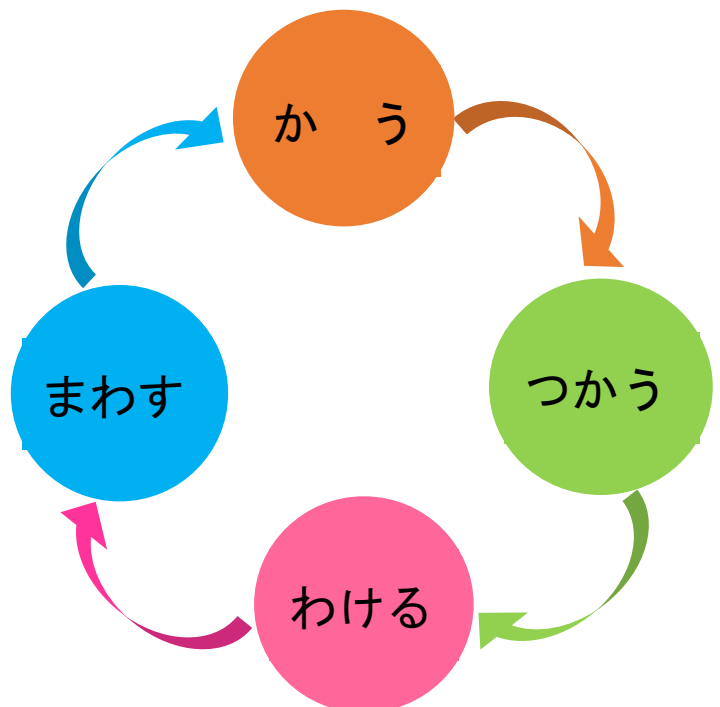
- ・丁寧に、長く使う
- ・定期的にメンテナンスする
- ・壊れたら直して使い続ける

資源ごとに分ける

- ・自治体の分別ルールをまもる
- ・洗って、素材ごとに分別する
- ・店舗や企業の回収ボックスを利用する

資源をまわす

- ・リサイクルショップやフリマアプリを利用する
- ・使わないものを寄付する



発酵食品って何？

発酵食品とは、微生物の働きにより、食材の持つ元々の性質が有益に変化した食品のことです。この変化で香りや味がよくなり、栄養分が増加し、保存性が高まります。例(チーズ、ヨーグルト、納豆、味噌、キムチなど)

《歴史》

- ・日本では縄文時代にはアワやヒエ、ドングリを原料とした原始的な発酵食品づくりが行われていました。
- ・奈良時代に瓜を塩漬けにして食べていたと最初の記録が文献に残っています。魚を使った発酵食品の記録も多く、魚を塩と米で発酵させた「鮓(すし)」は、保存食として利用されていました。
- ・平安時代中期には味噌や醬(ひしお)などの調味料が広く利用されるようになりました。
- ・その後、米で麴が作られるようになり、発酵技術が格段に進歩しました。
- ・米味噌が全国に広がり、各地で独自の味噌が作られるようになりました。
- ・醤油も麴を育ててから塩水に浸ける作り方が広まったことで、発酵・分解が促進され、現在のような香り高い、おいしい醤油が生まれました。
- ・酒づくりでも麴をどのように使ったらおいしくなるか、長い年月をかけた努力の末、全国各地で個性豊かな日本酒や焼酎などが作られるようになりました。

《ひとこと》

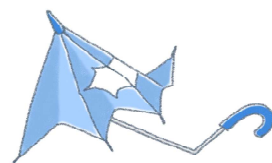
日本は納豆、醤油、味噌、漬物、日本酒など、世界的に見ても発酵食品の種類が非常に多い国です。発酵食品はおいしいだけでなく、栄養分も豊富に含まれています。日々の食卓に発酵食品を取り入れたいものです。



ガラス繊維強化プラスチックによる けがに注意！

—傘の骨などに使用されています—

- ・ガラス繊維強化プラスチックは、細いガラス繊維の束に樹脂をしみ込ませて成形したもので、傘の骨、園芸用ポール、テントの支柱などに使用されることがあります。
- ・ガラス繊維は細く肉眼では見えづらいため気づかず露出した部分に触れると、けがをするおそれがあります。



【事件事例】

子どもが人とすれ違うときにぶつかり、グラスファイバー製の傘の親骨が折れて、細かなガラス繊維が手に刺さった。

【アドバイス】

- ・ガラス繊維強化プラスチックは、表面からガラス繊維の先端が露出していることがあります。不用意に素手で触らないなど取り扱いには注意しましょう。
- ・ガラス繊維が皮膚に刺さって、痛みが続く場合は、皮膚科等の医師の診察・処置を受けましょう。

あとがき

暑い夏がやっと終わり、足早に秋が去り、冬がやって来ました。

日本の美しい四季は二季になるのかと不安になります。

未来はどうなるのでしょうか？

持続可能な社会を未来につなげるために、消費者一人ひとり何ができるのか、意識を持って行動しましょう。